

論点2 ごみ減量・リサイクルの現状や課題, 市民との共汗による取組等

ごみ減量・リサイクルの現状や課題について。また、市民サービスの維持・向上を図り、市民との協働による取組を一層促進するために、どうあるべきか。

1 資源ごみの分別品目や収集, 回収の状況

(1) ごみ量の削減目標と推移

(まとめ)

ごみ量は家庭ごみ有料指定袋制の導入や、その財源を活用した市民協働による資源ごみ回収など再資源化の取組、事業ごみ減量の取組等により、ピーク時（平成12年度）から41%の削減となったが、近年、家庭ごみの量は、ほぼ横ばいの状況にあるため、削減目標達成に向け、一層の取組が必要である。

【委員からの関連意見】

- 市民の意識が高まれば、ごみはまだまだ減らせる。自治会と連携し、エコ学区の取組や市民しんぶんの活用等により、京都市の施策をより浸透していけば、ごみ減量は可能である。
- ごみ減量やまちの美化については、既に頑張っている方々もいるが、無関心な方もいる。こういった方々に、どのようにアプローチしていくかが今後の課題である。

(2) 回収品目

(まとめ)

分別品目数について、現状、定期収集8品目のほか、拠点回収品目16品目を合わせた24品目※であり、これ以上細分化すれば、分別方法がわかりにくくなるため、現状のままでよい。

※ 政令指定都市のうち最も多い回収品目となっている。

【委員からの関連意見】

- ごみの分別品目数については、他の政令指定都市に比べてもトップであり、これ以上分けると複雑すぎるため、現状のままで良いと思う。

(3) 回収拠点

(まとめ)

本市の特色として、自治会館や福祉施設等にも幅広く回収拠点を設置している。地域の繋がりを活かした市民協働の資源物回収（コミュニティ回収）を積極的に進め、取組の周知徹底、回収機会の拡大を図る必要がある。

【委員からの関連意見】

- 市民には、回収拠点まで遠いため持参できないという声もあるが、私の地元では児童館に協力いただき資源物を回収している。毎日、いつでも、回収できる場所が近所にある点が大変好評である。

(4) 燃やすごみの減量の取組

(まとめ)

家庭ごみのうち、燃やすごみの組成は、生ごみが約4割、紙ごみが約3割を占めている状況を踏まえ、本市では、ごみの減量を効果的に促進するため、生ごみ減量の啓発や、古紙の分別・リサイクルの推進の強化に努める必要がある。

【委員からの関連意見】

- 市民の意識が高まれば、ごみはまだまだ減らせる。自治会と連携し、エコ学区の取組や市民しんぶんの活用等により、京都市の施策をより浸透していけば、ごみ減量は可能である。【再掲】
- ごみ減量やまちの美化については、既に頑張っている方々もいるが、無関心な方もいる。こういった方々に、どのようにアプローチしていくかが今後の課題である。【再掲】

2 市民との協働によるごみ減量やリサイクルの取組、まちの美化の推進

(1) 市民との協働による取組の推進

(まとめ)

家庭ごみの排出は市民生活に密着したものであることから、まずは、市民自らが主体的にごみ減量、分別排出に取り組むことが重要であり、行政はごみ減量に向けた意識の醸成や、分別排出に関する知識向上を図っていく必要がある。そのためには、行政が主体となって一方向に行う啓発等の取組だけでなく、市民と協働した取組が不可欠である。

【委員からの関連意見】

- ごみ減量の推進にあたっては、市民の意識を高める必要がある。市民は分別方法を知っているようで知らない。京都市の政策等について、もっと市民にPRし、分かりやすい普及啓発や環境教育が必要である。
- ごみの減量やリサイクルを進めるには、主婦だけでなく地域全体で気づき、取り組める工夫が必要である。
- ごみ減量やまちの美化については、既に頑張っている方々もいるが、無関心な方もいる。こういった方々に、どのようにアプローチしていくかが今後の課題である。【再掲】

3 市民ニーズに応えるために取り組むべき業務

(1) 取組の観点

(まとめ)

市民に、より一層のごみ減量・リサイクルに取り組んでいただくため、「分別方法の知識の普及」を積極的に進めるとともに、「利便性の高い資源物の排出方法」について、資源物回収に係る費用対効果を踏まえ、検討する必要がある。

【委員からの関連意見】

- 分別方法等のチラシが届いた時には読むが、すぐに紛失してしまうため、例えば、排出場所に分別方法等を掲示するなどして、市民が確認しながら排出できるようにしてはどうか。
- 例えば、大学生等の若い世代へのごみ分別啓発は、スマートフォンを活用した、ゲーム感覚で楽しみつつ、義務から楽しみや習慣へと意識付けできるようなものがふさわしいのではないか。

(2) まち美化事務所による取組

(まとめ)

- 現在、エコまちステーションが中心となって、ごみの減量・リサイクルを推進している。
- 今後、ごみ減量・リサイクルをより一層効果的に推進していくためには、まち美化事務所の職員のごみの収集・分別に関する知識と、そのマンパワーを活用することが有効であり、地域に積極的に向き、地域全体で気づき、市民との共汗による取組を実施していく必要がある。

【委員からの関連意見】

- 地域全体で気づき、取り組める仕組みづくりに対して、まち美化事務所等のマンパワーをいかに活用するかが重要である。
- ごみ減量・リサイクルの推進は、市民の自発的な取組であることがポイントであり、地域のごみ減量の成果がでるよう、まち美化事務所が協力することが有効ではないかと思う。
- 京都市のごみ減量・リサイクルの取組は先進的で、かつ成果も出ている。これまでのノウハウを十分に生かし、市民サービスの向上を図ることが必要である。その際、知識、経験があるという点で、まち美化事務所、エコまちステーションの役割は非常に重要と考える。優秀な職員の育成も必要である。【再掲】